

新型インフルエンザに関するQ & A

平成17年11月15日

厚生労働省

インフルエンザは、インフルエンザウイルスに感染することによっておこる病気です。これまでヒトに感染しなかったインフルエンザウイルスがその性質を変え（変異し）、ヒトへと感染するようになり、そしてまたヒトからヒトへと感染するようになるといわゆる新型インフルエンザが出現することになります。

平成 15 年（2003 年）12 月以降、タイ、ベトナム、インドネシアなどの東南アジアにおいて、通常ヒトには感染することがない鳥インフルエンザに 125 人が感染し、これまでに 64 人の死者がでています（2005 年 11 月 10 日現在）。これまでのところヒトからヒトへの感染は確認されていませんが、ヒトからヒトへ感染するウイルス（新型インフルエンザウイルス）へと変異し、世界的な流行（パンデミック）の可能性がでてきています。

そのためWHO（世界保健機関）では、平成 11 年（1999 年）インフルエンザパンデミック計画を発行し、本年 5 月には、世界インフルエンザ事前対策計画が改訂され、WHOおよび各国の対応が示されました。

厚生労働省では、新型インフルエンザの発生及びまん延防止のために、平成 9 年の報告書に引き続き、平成 16 年（2004 年）8 月に基本的な方針としての報告書を取りまとめ、平成 17 年（2005 年）4 月「感染症の予防の総合的な推進を図るための基本的な指針」及び「インフルエンザに関する特定感染症予防指針」を改正し、方針を定めました。また同年 10 月には、新型インフルエンザ対策推進本部を設置し、その対策のための行動計画を策定しました。

国民の皆様が、新型インフルエンザについて正確に理解し、その予防など冷静に対応できるよう「新型インフルエンザに関するQ & A」を作成しました。今後とも新型インフルエンザに関して、正確かつ迅速な情報提供に努めます。

よくある質問

I. 新型インフルエンザの流行・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5

- Q 1 新型インフルエンザとは何ですか。
- Q 2 これまでに新型インフルエンザの流行はありましたか。
- Q 3 なぜ、新型インフルエンザの世界的流行（パンデミック）の可能性が指摘されているのですか。
- Q 4 新型インフルエンザの世界的な流行（パンデミック）を阻止することはできないのですか。
- Q 5 新型インフルエンザが全国的に流行した場合に、どのくらいの人が感染すると予測されるのですか。
- Q 6 国は新型インフルエンザの流行に対してどのような準備をしているのですか。また、流行した場合、どのような対策をとるのですか。

II. 鳥インフルエンザと新型インフルエンザ・・・・・・・・・・・・・・・・ 7

- Q 7 鳥インフルエンザ、高病原性鳥インフルエンザとはどのような病気ですか。
- Q 8 鳥インフルエンザ（高病原性鳥インフルエンザ）ウイルスがヒトに感染した例はありますか。
- Q 9 鳥インフルエンザ（高病原性鳥インフルエンザ）と新型インフルエンザとはどのような関連があるのですか。

III. 予防・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9

- Q 10 通常のインフルエンザの予防接種は、新型インフルエンザに効果がありますか。
- Q 11 新型インフルエンザの予防はどうしたらよいのですか。
- Q 12 新型インフルエンザに感染した場合、どのような症状がでるのですか。
- Q 13 新型インフルエンザにかかったかどうか、どうしたらわかりますか。
- Q 14 新型インフルエンザの治療法はあるのですか。

IV. 行動計画について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 11

Q15 どうして行動計画を作成したのですか。

Q16 行動計画はどのような内容になっているのですか。

Q17 流行（パンデミック）はどのように6つのフェーズ（段階）が分かれているのですか。また、現在、どのフェーズですか。

Q18 「現在のフェーズで、国はどのようなことを行うのですか。

Q19 現在のフェーズで、国はどのようなことを行うのですか。

V. 問い合わせ先・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 13

Q20 新型インフルエンザ、行動計画について、わからないことはどこに問い合わせればよいのですか。

I. 新型インフルエンザの流行

Q 1 新型インフルエンザとは何ですか。

インフルエンザは、インフルエンザウイルスに感染することによっておこる病気です。ヒトだけでなく、他の動物もインフルエンザウイルスに感染します。通常、インフルエンザウイルスは、例えばヒトからヒトへといった同種の間で感染するものです。

しかし、インフルエンザウイルスの性質が変わる（変異する）ことによって、これまでに、ヒトに感染しなかったインフルエンザウイルスが、ヒトへ感染するようになり、そしてさらにはヒトからヒトへ感染するようになります。この変異したインフルエンザウイルスのことを新型インフルエンザウイルスといい、そのウイルスによって起こるインフルエンザを新型インフルエンザといいます。

Q 2 これまでに新型インフルエンザの流行はありましたか。

新型インフルエンザとして、大正7年（1918年）に「スペインインフルエンザ」、昭和32年（1957年）に「アジアインフルエンザ」、昭和43年（1968年）に「香港インフルエンザ」、昭和52年（1977年）に「ソ連インフルエンザ」が流行しています。これらはいずれも世界的に流行し、多くの死亡者（たとえば、「スペインインフルエンザ」において、世界では約4,000万人、わが国では約39万人が死亡）を出しました。新型インフルエンザは、10年から40年の周期で流行するといわれています。

しかし、新型インフルエンザウイルスがいつ出現するのか、予測することはできません。

（注：これまで一般に、スペインかぜ、アジアかぜ、香港かぜ、ソ連かぜと表記してきたものについては、本資料では、それぞれ、スペインインフルエンザ、アジアインフルエンザ、香港インフルエンザ、ソ連インフルエンザと表記しています。）

Q 3 なぜ、新型インフルエンザの世界的流行（パンデミック）の可能性が指摘されているのですか。

Q 1に記載があるようにインフルエンザウイルスが変異し、新たにヒトからヒトへ感染する、つまり、新型インフルエンザの世界的流行の可能性が示唆されています。新型インフルエンザがもし発生した場合、基本的にすべての人々は、そのウイルスに対して抵抗力（免疫）をもたないため、新型インフルエンザはヒトの間で、広範にかつ急速に

拡がると考えられます。さらに、人口の増加や都市への人口集中、飛行機などの高速大量交通機関の発達などから、短期間に地球全体にまん延すると考えられます。この世界的流行をパンデミックといいます。

ただし、新型インフルエンザウイルスがどのくらい強い感染力をもつのかについては、現段階ではわかりません。

Q 4 新型インフルエンザの世界的に流行（パンデミック）を阻止することはできないのですか。

パンデミックを阻止することは世界的にも非常に困難であると考えられていますが、最近の研究では、新型インフルエンザの発生の初期で、その範囲が限られている場合においては、抗インフルエンザウイルス薬の内服と移動制限を行うことで、流行の拡大を遅らせ、次の対策を講じることができることとなります。しかし、これまで世界中で経験がないことなので、どの程度成功するかは未知数です。初めて発生する地域で、その発生をいかに早期に発見し、適切な対策をとることが大切です。

わが国の対策については、「新型インフルエンザ対策行動計画」に示されています。

Q 5 新型インフルエンザが全国的に流行した場合に、どのくらいの人々が感染すると予測されるのですか。

米国疾病管理センターの計算式に日本をあてはめると、新型インフルエンザが全国的に流行した場合、約1/4の人が感染すると予想され、また、医療機関を受診する患者数は最大で2500万人と推定されています。

Q 6 国は新型インフルエンザの流行に対してどのような準備をしているのですか。また、流行した場合、どのような対策をとるのですか。

厚生労働省では、平成17年10月、国民への正確な情報の提供、予防や治療など、その流行状況に応じた対策を総合的に推進するため、厚生労働大臣を本部長とする「新型インフルエンザ対策推進本部」を設置しました。同時に、厚生労働省では、「新型インフルエンザ対策行動計画」を策定し、新型インフルエンザの発生状況に合わせた具体的な対策を講じることとしています。（Q18参照）

II. 鳥インフルエンザと新型インフルエンザ

Q7 鳥インフルエンザ、高病原性鳥インフルエンザとはどのような病気ですか。

インフルエンザウイルスは、自然界においてカモ、アヒルなどの水鳥を中心とした多くの鳥類に感染します。それを鳥インフルエンザといいます。また、鳥インフルエンザのなかでも、ニワトリ、カモなどが死亡してしまう重篤な症状をきたすものを高病原性鳥インフルエンザといいます。その原因となるウイルスは高病原性鳥インフルエンザウイルスといわれています。

鳥インフルエンザおよび高病原性鳥インフルエンザについては国立感染症研究所情報センターホームページ（URL ; <http://idsc.nih.go.jp/index-j.html>）を参照ください。

Q8 鳥インフルエンザ（高病原性鳥インフルエンザ）ウイルスがヒトに感染した例はありますか。

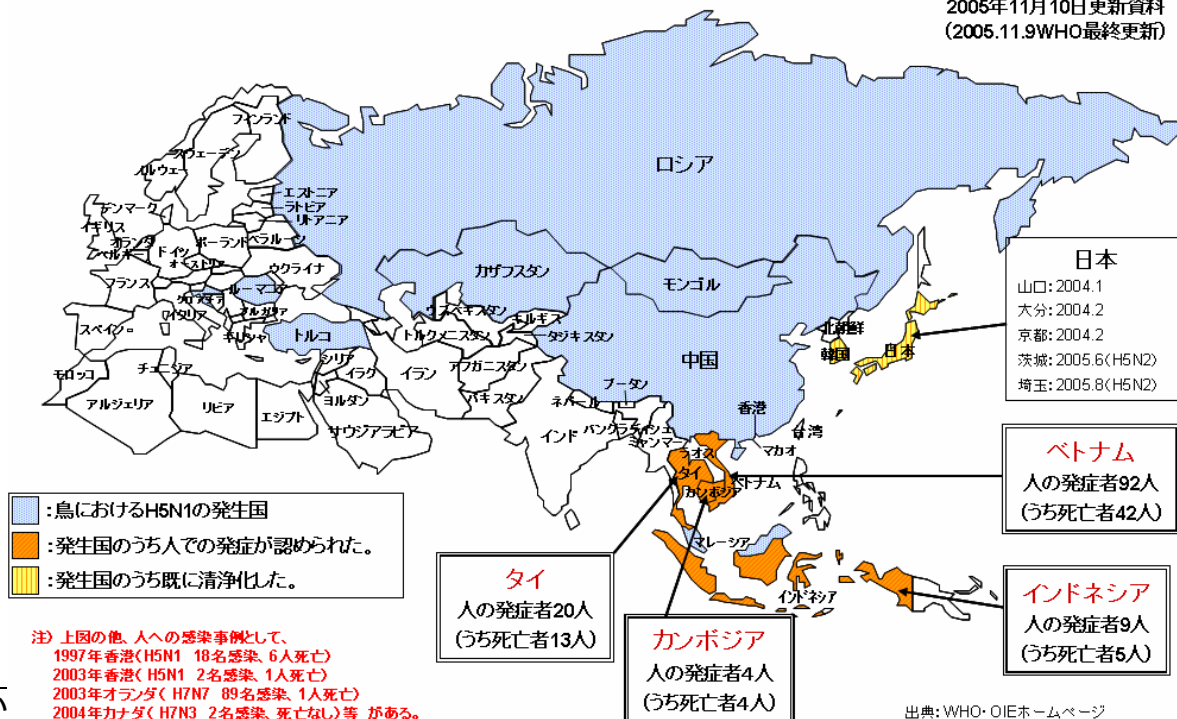
鳥インフルエンザウイルスは、通常ヒトに感染することはありませんが、近年、図1のように、ヒトにおける高病原性鳥インフルエンザ発症事例が報告されています。これまで、タイ、ベトナム、インドネシアなど東南アジアを中心に、125人が発症し、64人の死亡者がでています（2005年11月10日現在）。

▼図1

高病原性鳥インフルエンザ(H5N1) 発生国及び人での発症事例（2003年12月以降）

(WHO・各国政府の正式な公表に基づく)

2005年11月10日更新資料
(2005.11.9WHO最終更新)

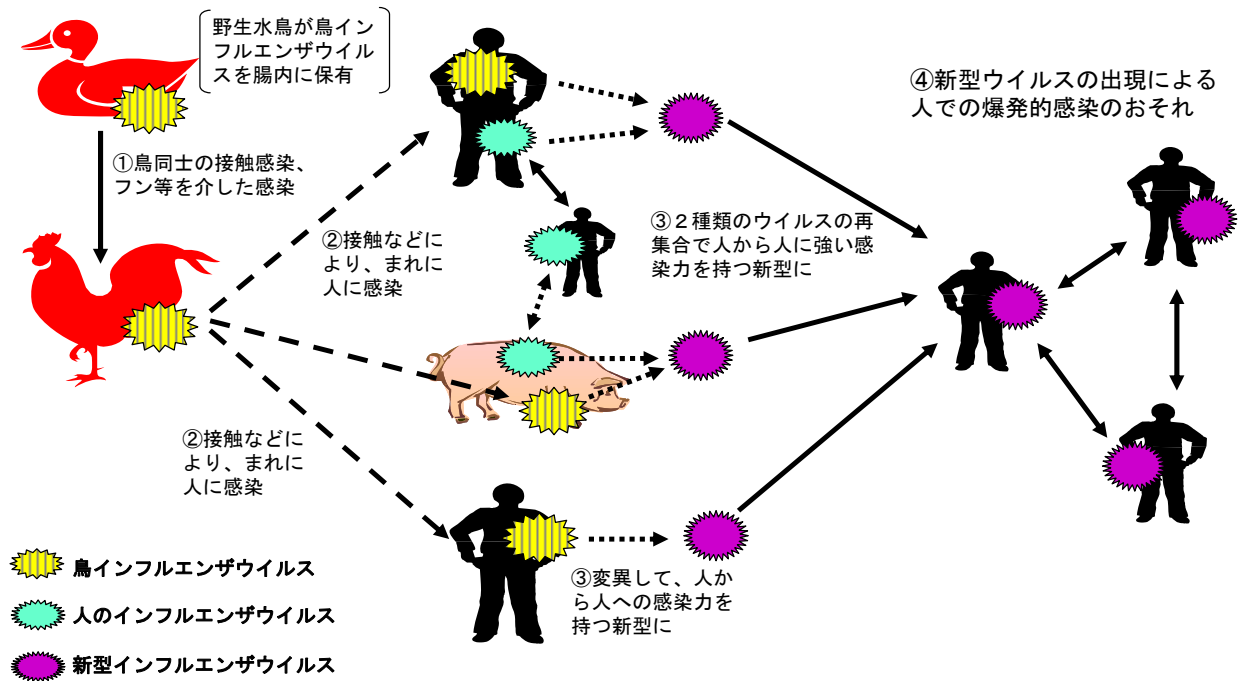


Q9 鳥インフルエンザ（高病原性鳥インフルエンザ）と新型インフルエンザとはどのような関連があるのですか。

鳥インフルエンザウイルスが新型インフルエンザになるには、2つの仕組みがあります。

ひとつの仕組みは、鳥インフルエンザウイルスがヒトや鳥類の体内で変異し、ヒトからヒトへ感染するウイルス（新型インフルエンザウイルス）になることです。もうひとつの仕組みは、ヒトやブタに、ヒトのインフルエンザウイルスと鳥インフルエンザウイルスが同時に感染し、それぞれが混ざり合い、ヒトからヒトへ感染する新型インフルエンザウイルスになることです。

鳥インフルエンザウイルスと新型インフルエンザウイルスの関係



Ⅲ. 予防

Q 1 0 通常のインフルエンザの予防接種（ワクチン接種）は、新型インフルエンザに効果がありますか。

通常のインフルエンザの予防接種に用いられているワクチンは、一般のインフルエンザには感染防御、症状の重症化軽減に効果があるとされています。

新型インフルエンザのヒトーヒト感染が起きた場合、予防手段として直ちに使用できるワクチンは現時点ではありませんが、新型インフルエンザのウイルスに対して効果を発揮するワクチンの早期実用化に向けた開発努力が、日本を含め世界の各国で展開されています。

Q 1 1 新型インフルエンザの予防はどうしたらよいのですか。

通常のインフルエンザは、感染した人の咳、くしゃみ、つばなどの飛沫とともに放出されたウイルスを吸入することによって感染します。そのため、外出後のうがいや手洗い、マスクの着用、流行地への渡航、人混みや繁華街への外出を控えることが重要です。また、十分に休養をとり、体力や抵抗力を高め、日頃からバランスよく栄養をとることも大切です。現状では新型インフルエンザは出現していませんが、出現した場合も通常のインフルエンザと同様に感染防御に努めることが重要です。

Q 1 2 新型インフルエンザに感染した場合、どのような症状がでるのですか。

新型インフルエンザに変異することが懸念されている高病原性鳥インフルエンザの症状としては、これまで東南アジアなどでの事例では、発熱、咳など、ヒトの一般的なインフルエンザと同様の症状に加え、60%以上の感染者に下痢が認められました。また、結膜炎、呼吸器症状や、多臓器不全に至る重症なものまで様々な症状がみられ、死亡の主な原因は肺炎でした。

しかし、ヒトからヒトへ感染する新型インフルエンザウイルスに変異した場合、その症状の程度は、現在のところ予測することが困難です。

Q 1 3 新型インフルエンザにかかったかどうか、どうしたらわかりますか。

現在、新型インフルエンザは発生していませんが、国内外で発生が見られ、かつ、Q

12にあるような発熱、咳などのいわゆるインフルエンザの症状がある場合には、医療機関を受診し、専門的な検査で確かめることができます。現在のところ、この検査は地方衛生研究所や感染症研究所などで実施しています。

Q14 新型インフルエンザの治療法はあるのですか。

インフルエンザの治療に使われている抗インフルエンザウイルス薬が有効ではないかと考えられており、今回の行動計画では、2500万人分の抗インフルエンザウイルス薬を備蓄することとしました。また、Q10にあるようにワクチンも開発中です。治療薬、治療方法について、最新の知見が発表され次第、情報提供し、国がとるべきしかるべき対応策について公表してまいります。

IV. 行動計画について

Q15 どうして行動計画を作成したのですか。

最近では、高病原性鳥インフルエンザの発生が、東南アジアのみならず、ロシア、東欧においても広がっており、さらには、平成15年（2003年）以降、東南アジアを中心にヒトにおける高病原性鳥インフルエンザ発症事例が報告されています（Q9参照）。

こうした状況を踏まえ、世界各国において高病原性鳥インフルエンザが変異した新型インフルエンザの発生に備えた対応をとる必要があり、わが国においても、「新型インフルエンザ対策行動計画」を策定し、対策を推進することとしました。

Q16 行動計画はどのような内容になっているのですか。

行動計画では、流行（パンデミック）の状況を、それが起こる前からピークを迎えるまでを6つのフェーズ（段階）に分類し、それぞれに応じた対策を記載しています。対策は、「計画と連携」「サーベイランス」「予防と封じ込め」「医療」「情報提供・共有」の5分野に分かれています。

Q17 流行（パンデミック）はどのように6つのフェーズ（段階）が分かれていますか。また、現在、どのフェーズですか。

フェーズは、トリとヒトの感染の有無、国内外での感染の発生の有無によって分けられています。現在は、トリからヒトへの感染が海外で認められている（国内で発生していない）フェーズ3となっています。

WHOの2005年版分類による

パンデミックフェーズ

フェーズ1（前パンデミック期）

ヒトから新しい亜型のインフルエンザは検出されていないが、ヒトへ感染する可能性を持つ型のウイルスを動物に検出

フェーズ2（前パンデミック期）

ヒトから新しい亜型のインフルエンザは検出されていないが、動物からヒトへ感染するリスクが高いウイルスが検出

フェーズ3 (パンデミックアラート期)

ヒトへの新しい亜型のインフルエンザ感染が確認されているが、ヒトからヒトへの感染は基本的にはない

フェーズ4 (パンデミックアラート期)

ヒトからヒトへの新しい亜型のインフルエンザ感染が確認されているが、感染集団は小さく限られている

フェーズ5 (パンデミックアラート期)

ヒトからヒトへの新しい亜型のインフルエンザ感染が確認され、パンデミック発生のリスクが大きな、より大きな集団発生がみられる

フェーズ6 (パンデミック期)

パンデミックが発生し、一般社会で急速に感染が拡大している

後パンデミック期

パンデミックが発生する前の状態へ、急速に回復している

Q18 現在のフェーズで、国はどのようなことを行うのですか。

現在は、フェーズ3であり、新型インフルエンザが国内で発生していない現状においては、次のような対策を講じることとしています。

(抜粋)

- ・ 海外渡航者に対する注意喚起を行う。
- ・ 国内飼育家きんの高病原性鳥インフルエンザの発生防止対策の徹底、農場の従事者等に対する感染防御への支援、要請を行う。
- ・ 抗インフルエンザウイルス薬の確保すべき量を決定し、備蓄を開始する。
- ・ 新型インフルエンザ患者の診療・治療にあたる指定医療機関等の整備、必要な医療器材等の確保を進めるよう要請する。
- ・ 高病原性鳥インフルエンザについて、発生国の在留邦人、国民向けに情報提供する。

Q19 世界的大流行(パンデミック)の時には、国はどのようなことを行うのですか。

世界的大流行(パンデミック)が、わが国にも及んできた場合、厚生労働大臣が非常事態宣言(国内対策強化宣言)を行った上で、場合によっては不特定多数の集まる活動の自粛勧告、新型インフルエンザ様症状が見られた者の出勤停止・受診勧告等の社会活動の制限など、対策を講じることとしています。

V. 問い合わせ先

Q20 新型インフルエンザ、行動計画について、わからないことはどこに問い合わせればよいのですか。

新型インフルエンザ等に関する情報は、厚生労働省のホームページを随時更新する予定です。なお、問い合わせ先については、現在体制を整備中です。体制が決まり次第、お知らせいたします。